

放置された人工林を整備 搬出間伐までの取組

NPO法人こにふあくらぶ (香川県)

間伐・間伐材コンクールで
平成十九年に受賞経験も

香川県高松市にある「こにふあくらぶ」(※平成十九年にNPO法人を取得)が設立されたのは平成十一年。現在、事務局長をつとめている杉本泰志氏は、香川県が主催する森林ボランティア育成ネットワークに参加、そこで学んだことを活かして仲間たちと会を立ち上げました。

「当初の三年間は里山整備や子供たちを集めての森林教育を行っていたのですが、その内にもっと実践的な活動をするクラブを作ろうという提案がありまして、平成十一年にスタートしたのが「こにふあくらぶ」です。最初の活動は週に一回の枝打ちだったのですが、次第に私たちの存在を知る方が多くなって、人工林の整備の依頼が増えてきました。活動は土日の週二回のペースで行っています」(杉本泰志氏)

現在の会員は二十一名。森林所有者が高齢化するなどにより放置されているヒノキ・スギの人工林の整備を行っており、その精力的な活動が注目されています。

「香川県の場合はヒノキが圧倒的に多いので、枝打ち、間伐が主な作業ですね。ヒノキはスギと違って自ら枝を落とさないもので、枝打ちには非常に時間がかかります。六月から八月にかけては刈り払い機を使った下草刈りを行



NPO法人こにふあくらぶのメンバー

います。暑い時期ということもあり、この作業がいちばん大変ですね」(杉本泰志氏)

平成十九年度には間伐推進中央協議会が行っている「間伐・間伐材利用コンクール」の「森林ボランティア団体による森づくり」部門で、間伐推進中央協議会会長賞を受賞しています。また、平成二十年度には「香川県ボランティア大賞」を受賞。現在では間伐だけでなく間伐木の搬出にも取り組んでいます。

「コンクールを受賞した当時は、木を伐るだけの、いわゆる切り捨て間伐を行っていましたが、現在は搬出して間伐木を利用することが大きな課題となっています。そこで、平成



間伐材の集材作業



間伐



間伐と搬出の講習会の様子



ロープを使った搬出

data

〒 761-0434
 香川県高松市十川東町 931-7
 こにふあくらぶ事務局
 ☎087-848-1323

二十年から「こにふあくらぶ」では、本格的な搬出にも取り組んでいます。チェーンソーの扱いも相当なテクニックが必要とされ、危険も伴う作業なので、ボランティアでこまでやっている団体は少ないと思いますが、京都議定書における二酸化炭素削減が国全体でテーマとなっていることもあり、県からも応援していただいています」（杉本泰志氏）

優秀なスタッフが揃っていると語ってくれた杉山泰志氏。最後に活動のやりがいについて、話してもらいました。

「少し手間暇をかければ蘇るのに、せっかく祖先が育ててきた森林を放置しておくのもったいないと思う気持ちが一番です。人工林を整備し、作業が終わると林内に光が入り、達成感があります。大変な面もありますが、知識があつて、少し訓練すれば誰にでもできると思います。やりがいのある作業だと思いますよ」（杉本泰志氏）